

令和3年度 教育事業

「若狭湾海冒険～海とつながろう～」【R3.8.21(土)～23(月)】

◆目的

- ・若狭湾の自然の中で生活することを通して、自然の大切さを理解する。
- ・生活する中で出てくる様々な課題の解決を通して変化や状況を受け入れる力を付ける。
- ・自然の中で、仲間と関わり合いながら生活することで自己の成長を図る。

◆参加実績（募集16名）

参加11名（男性7名 女性4名）
小学5年生 4名
小学6年生 7名

◆プログラム

<1日目>

午後

- ・シーカヤック操船練習
- ・テント、タープ、寝袋使用練習

<2日目>

午前

- ・シーカヤック、スノーケル、釣り、海遊び

午後

- ・タープ張り
- ・シーカヤック、スノーケル、釣り、海遊び
- ・野外炊飯
- ・ファイヤーゲーム（語り場）

<3日目>

午前

- ・ビーチコーミング
- ・シーカヤック、スノーケル、釣り、海遊び



◆成果

- ・アンケート結果より8割以上の参加者が事業に対して満足と回答していることから、自然の大切さを理解したことが伺えた。
- ・参加者アンケートでは「生きる力」「心理的社会的能力」「徳育的能力」が向上し、保護者アンケートでは「生きる力」「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」が向上したことから、目的に沿った活動内容だったと伺える。

◆参加者の声

- ・海の中が色とりどりできれいだった。
- ・色々な魚を見つけた。
- ・釣りのエサを探すのが難しかった。
- ・自然の中で遊ぶのは、とても楽しかった。
- ・飛び込みは怖かったけど、楽しかった。
- ・海を見て風がどっちから吹いているのかわかるようになった。

◆保護者アンケートより

- ・日本海の美しさ、素晴らしさにすっかり魅了されて、「若狭にいきたい」「シーカヤックに乗りたい」と事あるごとに言ってくる。
- ・「漁師さんになりたい」「船舶の免許はどうやってとるのか」聞いてきた。
- ・食事の時に家族のごはんをよそって用意を手伝ってくれた。
- ・野菜を切ってごはんを作ってくれた。
- ・学校の準備などすべて自分でやるようになった。
- ・生魚が食べれるようになった。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・外部指導員を委託し、活動内容の充実を図った。
- ・コロナウイルス対策として、
 - 事業一週間前から参加者には、毎日の検温や体調管理、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置地域への往来を控える等を依頼し、受付時にも検温確認等を行い参加者の体調把握に努めた。
 - 緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置（措置区域）地域在住者の参加を見送り参加者への安全に考慮した。その為定員を超える応募があったが直前の宣言等拡大により参加者11名での実施とした。
 - 使用物品は、消毒及び使い捨ての食器を使用し、飲料についても各自にペットボトルを用意するなど共有で使用しないように努めた。
 - テント泊を行わずタープ泊とした。